鎧橋随想

ドリームチーム

フジフューチャーズ代表取締役
定村　雅文

今年3月上旬、不覚にも手術が必要なほどの怪我を頭部に負ってしまいました。回復後、話を伺うと手術は6時間もかかったそうです。執刀されたのは30代の先生ですが、そのほかにも麻酔については第一級の方が担当されるなど、応急処置も含めて最良の手当をしていただきました。

一般に外科手術は医師2名以上、同数以上の看護婦、心電図や血圧などの検査技師など最低でも10名前後の人が現場に立会います。これら多くの優秀な方たちに、文字通り助けられて今日に至っており、大変感謝しております。実体験として、会社においてもこのような「ドリームチーム」の仕事ができればと思います。いろいろな部署の専門性や経験を活かして、最良の結果を求めていきたい。

また、コミュニケーションの重要性も教えられました。手術中、執刀の先生に年輩の先生がアドバイスされ、それにより後遺症もなく、先生から奇跡の回復とまでいわれました。最良の結果を求めるために、別の視点から意見を出すという、意思の疎通の重要性を改めて感じています。

最後に、入院生活を送ることで愚妻と久しぶりに何時間も話ができたことはよかったと思います。

もっと遊んであげて

カネツ投資顧問社長
若林　正俊

我家の家族構成は、家内と高校2年の娘、中学3年の息子の4人家族である。

先日、家内が私に子供達がちっとも遊んでくれないと、ポツリと洩らした。2年前ぐらい迄は、私が会社に行っている時に、娘や息子とよく映画を見たり、買物に出かけていたらしい。だから以前は、私だけが話題に入れない事がたまにあり、少々寂しい思いをした記憶がある。

特に息子は中学に入学してクラブ活動を始めた頃から少しずつ家内と出かける回数が減り、最近は家族で食事に出かける時ぐらいしか一緒に出かけない様である。

ちなみに息子は何を思ったのか、ゴルフ部に入った。元々スポーツが得意ではないので、クラブ内で人並みにやれる様になるには、練習しかないと、毎週日曜日の朝、ゴルフ練習場へ私（私のサイフと言うべきか）を駆り出すのである。

私自身ゴルフは下手である。だから出来れば遠慮したいほうである。しかし家内が言うには、喜んで息子と出かけて行くと言うのである。以前、私が感じた淋しさを今は家内が感じている様である。

たまには娘や息子に家内と付き合ってあげてほしいと思いながら母の日を控えてこの原稿を書いている。

読み・書き・計算

米常商事取締役
加藤　憲一

平成14年4月より学校完全週5日制が実現しました。その折、大きな改革として「総合的な学習の時間」が新設されました。

小・中学校では年間100～130時間割当され、従来の授業時間が大幅に減らされます。現場から色々な意見・情報が発信されていますが、過去の経験に照らし合せても答が出ていません。学ぶための基礎力は読解力・表現力・計算力のいわゆる「読み書き算盤」です。東北大学の川島隆太教授の研究ではコンピュータゲームをしている時より1桁の単純計算をしている時の方が脳が活発に動き、活性化しています。「音読」をしている時が最も活発に働いている事も判りました。

ところで学校以外での勉強時間はどうでしょう。総務省の発表した社会生活基本調査の中で補完関係にある塾を含め小学生が平均4時間41分勉強しているのに対し、大学生、大学院生は2時間59分という結果が分かりました。公立小中学校の父母の4人に3人が子供の学力低下の不安を感じ、学校や教員によって教育内容の質に格差が生まれ、「読み・書き・計算」など基礎基本が疎かになるのではとの大きな懸念を抱いているのが現状です。さて皆様は如何でしょうか。

欧米市場業務26年

ひまわりCX常務取締役
茂木　八洲男

外国出張の中では繰り返したくない体験もある。01年9月11日午前8時45分、ニューヨークWTC一階付近での同時多発テロ遭遇は特筆すべき事である。

徒歩で高速道路を北に避難する時に見たマンハッタンの西空は、真黒な爆風に覆われ、東は透き通るような青空が対照的であった。

避難する私たちは崩壊するWTCの粉塵と黒煙の中、ハンカチーフなどで口を被い、目をかばいながら汗にまみれ、「現実のアメリカの姿」に目を疑った。そんな中で心を奪われた事は徹底した弱者救済の姿勢であり、子供、女性、お年寄り優先の避難行動であった。何か恥じらいを感じたのは私だけだろうか。

市況商品市場と共に35年の時間を経た。11年間の海外駐在を含め26年間、欧米市場業務に従事している。延べ14年間にわたり外国FCMの経営に参加、多くの人脈に恵まれた上、国内から見る国際市場に加え、外国FCMの実務を通じ、わが国先物界を対比できた事は代え難い経験として残る。

一年の半分余りを外国で過ごす昨今にあって、今年はSARSのお陰で外国出張も少なく、外国からの訪問者も激減し、例年になく自国での業務に集中できる。

人形町・蛎殻町名店味めぐり

東穀協会と東穀取が1階ホールで

「独断と偏見で私がB級グルメの名店と飲み物を選びました」と東穀取の森實理事長が胸を張り、東穀協会の多々良義成会長が「農産物取引拡大の大キャンペーンを展開していますので、ぜひ御協力を」と呼び掛けて、6月23日、その受託会員懇親会は始まった。

取引所周辺の12店を、かつての立会場の面影を残す天井の高い1階ホールに集め、1カ所で賞味しようという味な仕掛け。「みんな食べようと思ったが、なかなかそうはいかないな」と腹をさする人もいて、約170人が楽しんだ。

きっと東穀取の商いも増えるに違いない。

にぎやかに談笑

小林洋行が優勝

第12回商品取引員親睦野球大会の決勝戦と3位決定戦が6月3日行われ、小林洋行が6対3で光陽グループを破り、優勝した。

◆事務局だより◆

プロ野球セントラルリーグでは阪神が2位以下を大きく引き離して独走しています。このまま行けば昭和60年以来、18年ぶりの優勝となります。道頓堀では早くもダイビング。大阪府知事もこれを機に川のどぶさらいをしたいとのジョーク。思えばバブル経済の始まりがこの頃。他業界はこの18年で明暗を経験しましたが、わが業界は着実に成長を続け、出来高、総取引金額とも当時の2倍以上に増えています。現在、制度改正論議が行われていますが、これが業界の更なる発展に結びつくことを念願しています。

拝見・中部商取ホール

安さと使い勝手で人気

中部商品取引所のホール

中部商品取引所が昨年12月、取引所ビル2階の旧立会場を改装してホールをつくった。少しでもPRに役立てばと地域の団体などに利用してもらい、「感じがよくて使いやすい」と極めて好評だ。予想を超える外部からの利用申し込みに、これほど取引所のPRになるとは――と驚いている。

ホールの大きさは面積にしておよそ200平方㍍。階段教室に似た設計で、収容人員は100人。使用料は1時間当たり会員2、000円、一般は4、000円。AV機器の使用料はマイクが500円で、プロジェクターは2、000円。周辺地域のビルにも同規模のホールがあるが、一般の使用料はそれらの半額程度と安い。

ホールの最大の特徴は、3階部分を吹き抜けにした旧立会場を改装したので、天井の高いことだ。天井の低い他ビルのホールと違って圧迫感がない。席に座るとゆったりとした感じを受ける。また、階段形式の席の配列だから、演壇に立っても話しやすい。話を聞く方も同様だ。しかも、音響効果に配慮した施工で、マイクを使わなくても声が良く通る。使用料の安いこと以上に、そうしたホールのつくりが好評の秘密だ。

旧立会場をホールに改装する際、それまでの一階入口のギャラリー・サキドリプラザを取り壊し、女子職員が笑顔で来客を迎える受付場所に衣替えした。もちろん、壁に相場の掲示板を組み込み、くつろいで話のできるソファーを置いた。

サキドリプラザ当時に比べるとフロア全体が明るく、温かくなった。一般来客はそうした一階フロアを通って2階のホールに向かう。だから、好感度係数がグッと高まる。

中部商取は平成8年、中部地区3取引所が統合、誕生した。12年に石油市場を開設し、出来高で東京工業品取引所に次ぐ全国2位の取引所に躍進した。旧立会場を廃してのホール設置は新時代への歩みの表れだ。

証言・戦後先物史

ハマイト奮戦記（3）

元横浜生絲取引所理事長　松村　千賀雄

100周年記念、そして合併

創立100周年記念パーティーで

――平成早々から5年にかけて暴騰暴落を繰り返したあと、平成6年に横浜生絲取引所創立100周年記念式典が催されました。

松村　当時は取引所の規制で巨額の損失を被ったという委託者の裁判が重なって大変でした。裁判の被告人に指名されて、理事を辞退された人もいました。

そんな中で、明治27年（1894）7月に売買を開始した「横浜蚕糸外四品取引所」から日本経済を支えてきた伝統ある取引所のために、百年記念事業を挙行しました。記念パーティーには横浜の政界、財界、商品先物業界、産地、加工・流通業界などの関係者が約1、300人も参加、大盛況でした。

――そのころ、前橋乾繭取引所との合併交渉は中断されていました。

松村　平成2年7月の通達「農林水産省関係商品取引所の合併推進について」の中で、合併協議指針の一つとして、繭糸4取引所（前橋乾繭取引所、横浜生絲取引所、豊橋乾繭取引所、神戸生糸取引所）の合併を取り上げたのが合併問題の発端です。その後、曲折があって平成4年には前橋と横浜の合併方針が固ってきました。

それから平成5年末まで両取引所で協議を重ねましたが、主として合併後の存続場所をめぐって双方とも譲らず中断しました。合併推進の動きが農水省の指導で出てくるのは3年後の平成8年からでした。

――平成10年10月1日に、やっと横浜商品取引所が誕生しました。合併取引所の設置場所については東京案もあったようですが。

松村　農水省は平成2年の通達で、例えば東京（蚕糸会館など）と挙げているように東京がよい――との考えで、前橋もこれに同調してきました。しかし、私は「横浜の灯は消さない」と強く主張し続けました。名称についても関東商品取引所、東日本商品取引所などの説もありましたが横浜を譲りませんでした。

――その結果、理事長を退任されました。

松村　場所、名称で譲歩する代りに理事長職は前橋に――との意向でした。合併という大事を果すのだから一向にさしつかえないと申し上げた。副理事長にとの話もありましたが筋が違うので断りました。（つづく）